

日本英語教育学会(JELES-53:2023)
2023年3月5日(日) 14:30-15:00

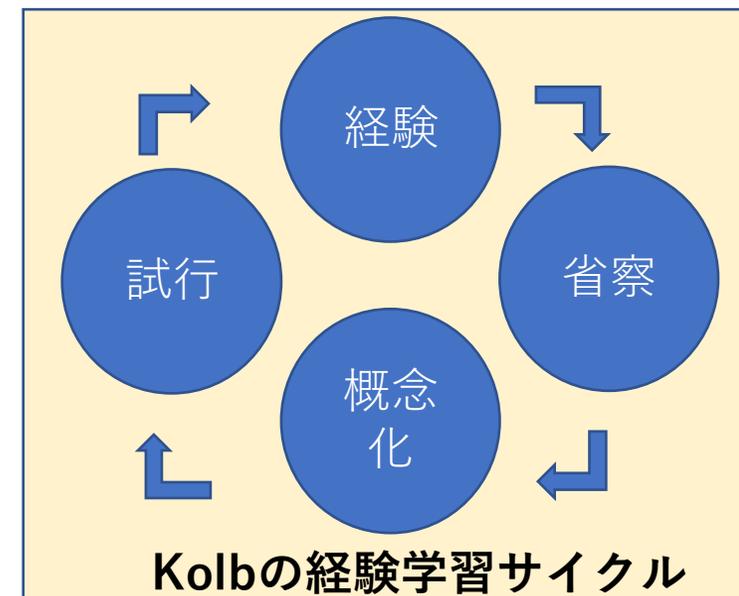
オンラインフォームを活用した 経験学習サイクル構築の一検討

京都工芸繊維大学
坪田康



ALACTモデルによる省察

省察（せいさつ）：学習等の経験を学びとして昇華させるために重要な過程の1つ。Dewey(1910)[3]、省察的实践(Schon, 1983)[4]や経験学習(Kolb, 1984)[5]など



持論（小文字のtheory）の構築・強化に偏りがち

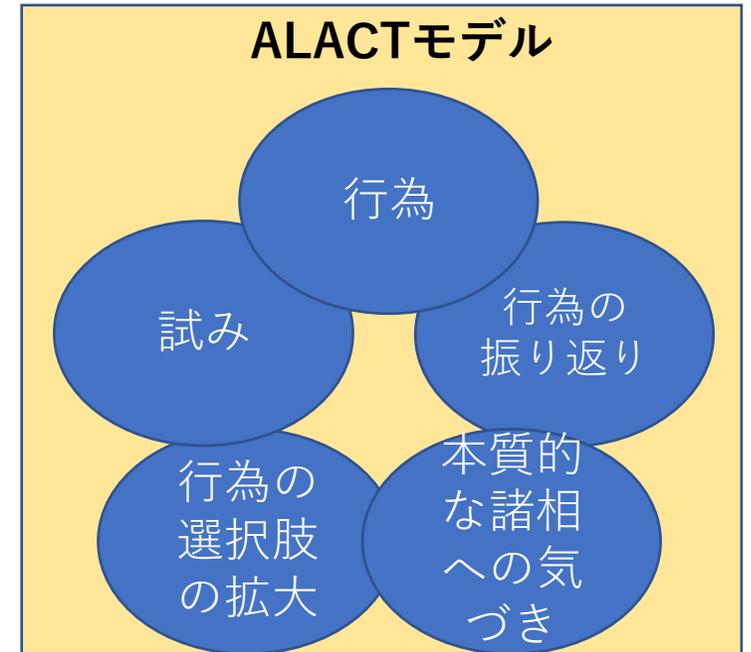
ALACTモデル（コルトハーヘン(1985)）：「行為」・「行為の振り返り」・「本質的な諸相への気づき」・「行為の選択肢の拡大」・「試み」のループからなるモデル



学問的・学術的知識（大文字のTheory）を組み合わせることでより深い省察を導く

英語プレゼンへの応用

学問的・学術的知識（大文字の**Theory**）を組み合わせることでより深い省察を導く



学習者自身の省察に、ピアレビュー、教員や英語話者などからのフィードバックによる、より大きな視野からの振り返りを促すことを目指す。

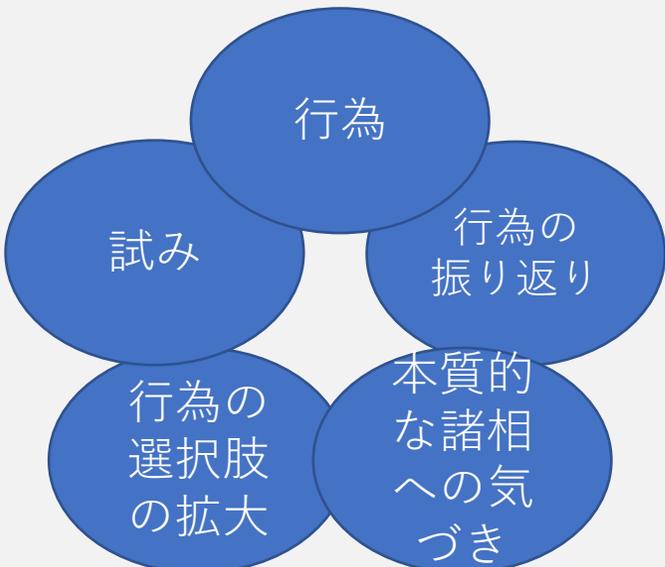
リフレクションに基づいた一斉指導時のプラクティスによって、表現・語彙の定着を促すことで、「行為の選択肢の拡大」へとつなげ、次の「試行」時に実践的に使えるように促すことを目指す。

プレゼン
共有の場
インタラクション

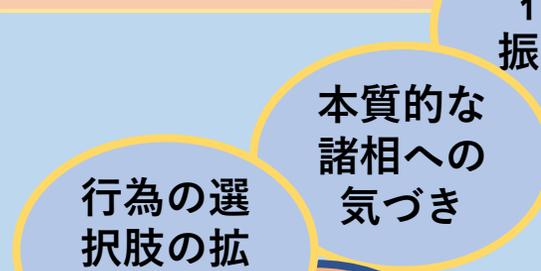
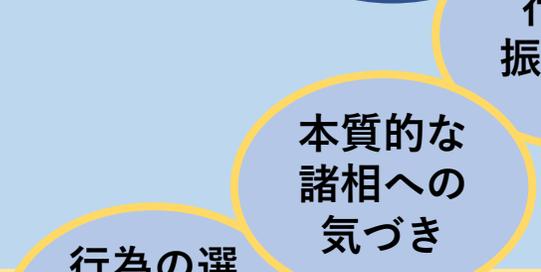
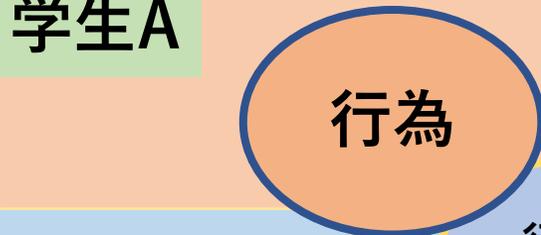
リフレクション
個別の場
×インタラクション

パターンプラクティス
共有の場
×インタラクション

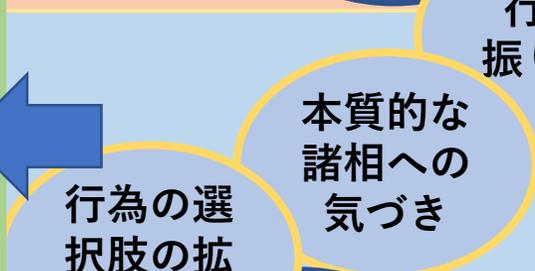
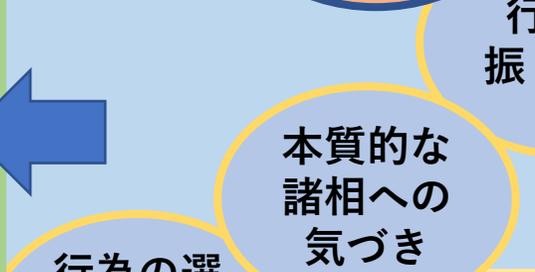
ALACTモデル



学生A



学生B

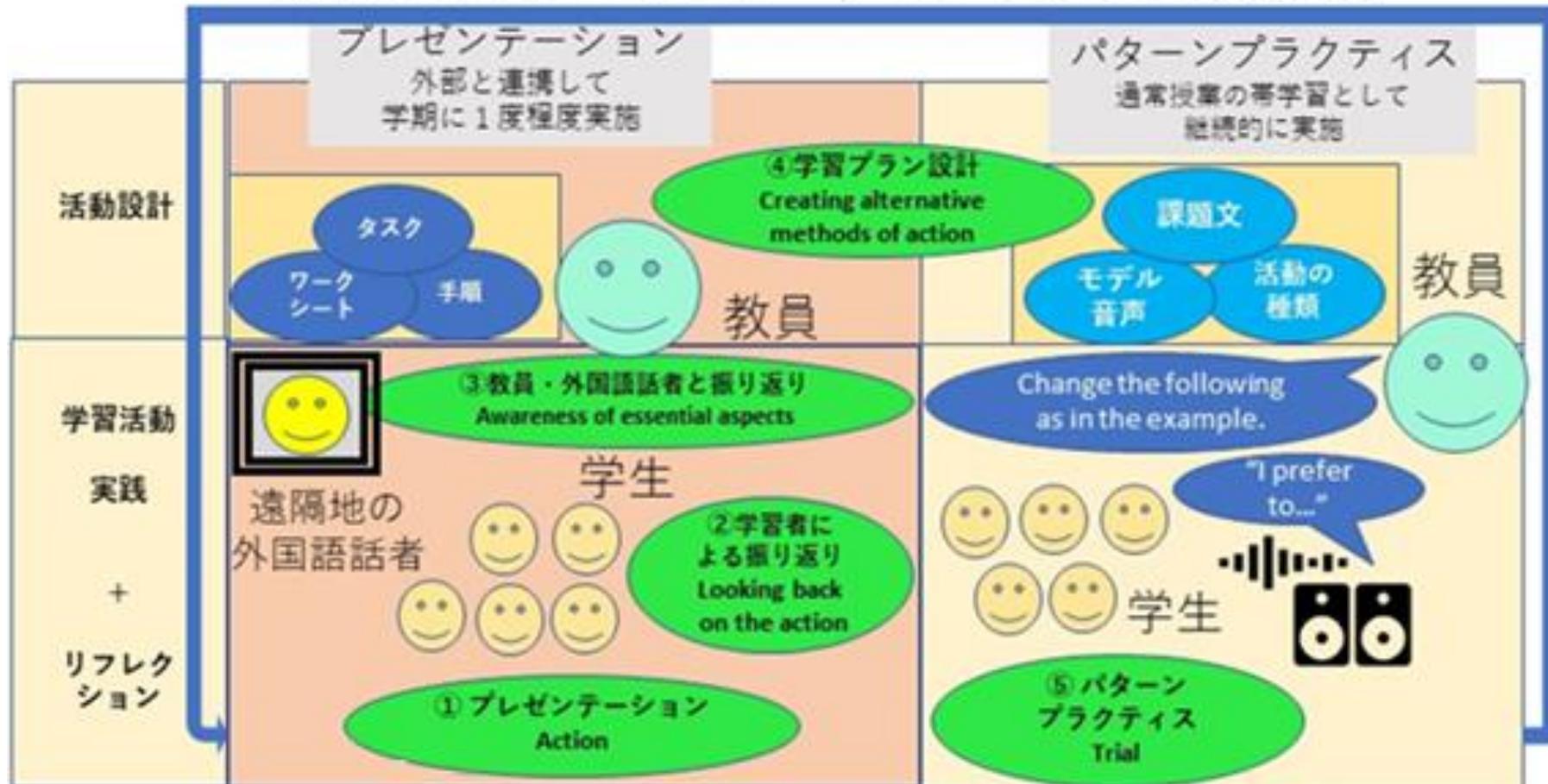


教師



リフレクションを活用した英語プレゼンテーション学習

ALACTモデル (緑) に基づいた
通常授業とプレゼンテーション学習の有機的連携



基盤研究(C) 英語プレゼンテーションとパターンプラクティスの
有機的な連携による音声活動の充実化, 2020 - 2022

国立大学Aでの実践

情報工学英語プレゼンテーション 集中講義

情報系の3, 4年生向け
研究室配属前の学生も
今期は7名が受講

スピーキング能力：A1～B1 (CEFR)
英語に対する苦手意識は強い



教室の風景

1日の授業の流れ

	活動	内容	備考	アプリの利用
午前	目標の共有	目標の共有	紙に記入	○：参照のみ
	Warmup活動	TED視聴、即答練習 ディスカッション		×
		Spontaneous speech	即興で話す練習	◎：記入・参照
午後	グループ練習 (2,3回繰り返す)	日替り (下段参照)	少人数・ピアでの練習	◎：記入・参照
	オンライン プレゼン (本番)	オンラインプレゼン時に遠隔地の英語話者も参加	全員の前で発表	◎：記入・参照
	リフレクション	達成度、自己・相互評価の共有	紙に記入	○：参照のみ

メインの活動

月：自己紹介 火：スライドプレゼン (理系トピック)
水：ポスタープレゼン (研究紹介) 木：本の推薦 金：スピーチ

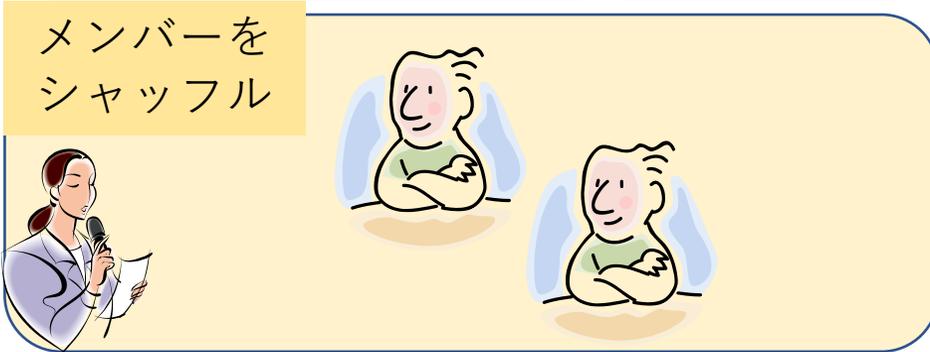
メインの活動の流れ

練習1
(少人数)



メンバーを
シャッフル

練習2
(少人数)



1人ずつ発表
全員分を評価

遠隔地の英語話者

zoom

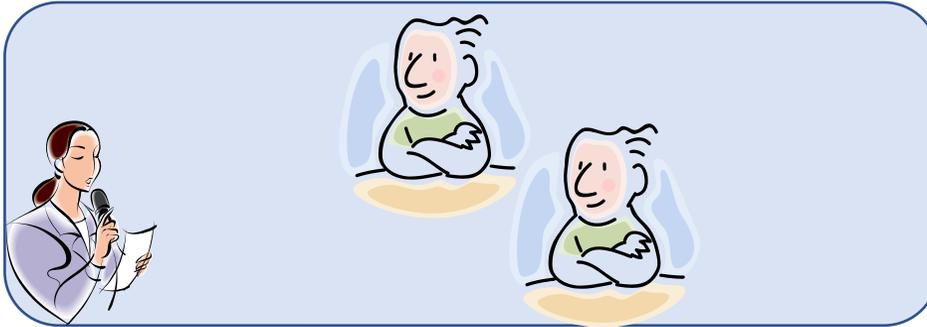
皆の前
で発表



メインの活動の流れ

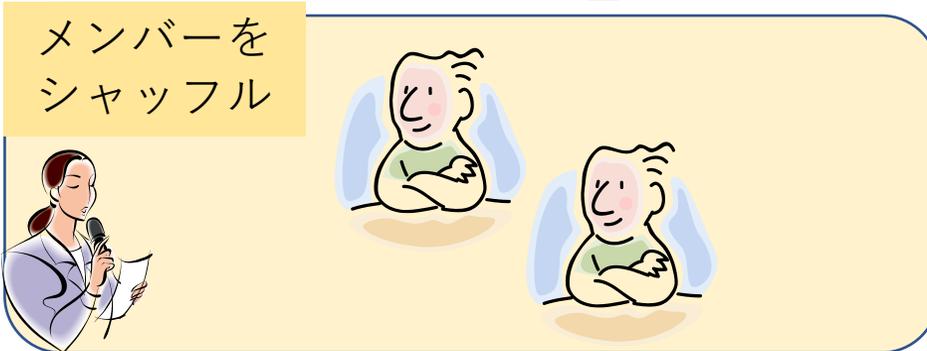
学生は活動毎に記入・参照

練習1
(少人数)



メンバーを
シャッフル

練習2
(少人数)



1人ずつ発表
全員分を評価

遠隔地の英語話者



皆の前
で発表



教員は適宜内容確認

1分スピーチ評価用

2022-09-04 16:40 - 1回目の評価

2022Z20101

詳細表示

#	観点	はい	どちらでもない	いいえ
1	時間配分はよかったですか	時間内に話し終わっていた/時間をゆとらせることなく終わっていた	大層というほどではないが、時間を超過していた/時間を大幅に超過していた(話し終わらなかった)/時間を大幅に超過していた	
2	面白かったですか/印象的でしたか	興味深い内容でも面白かった/とても印象的な内容だった	普通	つまらなかった/印象が薄かった
3	メモをあまり見せずに話せていましたか/アイコンタクトができていましたか	ほぼメモを見せずに話せていた。	聴衆の方をあまり見られていなかった	頻りにメモを見て、聴衆の方をほとんど見られていなかった
4	説明は分かりやすかったですか	説明が分かりやすかった		

大きな声で話した

今回達成できたこと



学生側のView

活動選択画面

金曜 - 午後：自由プレゼン（本番）

木曜 - 午後：本の内容のレポート（本番）

木曜 - 午後：本の内容のレポート（グループワーク）

木曜 - 午前：1分スピーチ

水曜 - 午後：専門の内容のプレゼンの相互評価（本番）

水曜 - 午後：専門の内容のプレゼンの相互評価（グループワーク）

水曜 - 午前：1分スピーチ

火曜 - 午後：パワポプレゼンの相互評価（本番）

火曜 - 午後：パワポプレゼンの相互評価（グループワーク）

入力画面

#	観点	3	2	1
1	時間配分はよかったですか	時間内に話し終わっていた/時間を余らせることなく終わっていた	大層というほどでないが、時間を超過していた/時間を残していた	時間を大層に超過していた(話し終わらなかった)/時間を大層に残していた
2	メモをあまり見ずに話せていましたか/アイコンタクトができていましたか	ほぼメモを見ずに話せていた	聴衆の方をあまり見られていなかった	終始メモを見て、聴衆の方をほとんどみられていなかった
3	情熱的/エネルギッシュな発表でしたか	情熱あふれる発表だった	普通	淡々とした発表だった
4	面白い発表でしたか/ためになる発表でしたか	面白い/ためになる発表だった	普通	つまらない発表だった
5	質疑1：内容	うまく対応できていた	とことろろ詰まっていたが、おおむねう	
6	質疑2：聞き返しや確認など	聞き取れない場合でも、確認したりしながら、うまく対応していた	おおよそうまくできていた/確認するところ	

Clickで評価

今回達成できたこと	
次回に向けての目標	

テキストで入力

金曜 - 午後：自由プレゼン（本番） / 情報工学英語プレゼンテーション（Tokyo Tech, 坪田康担当）
評価結果の詳細

評価の一覧表示

#	評価者	時間配分はよかったですか				メモをあまり見ずに話せていましたか/アイコンタクトができていましたか		
		3	2	1	コメント	3	2	1
1	自分							
	相互評価の集計)	29%	5%	0%	-	29%	5%	0%
2	受講者							
3	受講者							
4	受講者				動画と喋りの切り替えが大変そうだった。			

教員側のView

活動選択画面

金曜 - 午後：自由プレゼン（本番）

木曜 - 午後：本の内容のレポート（本番）

木曜 - 午後：本の内容のレポート（グループワーク）

木曜 - 午前：1分スピーチ

水曜 - 午後：専門の内容のプレゼンの相互評価（本番）

水曜 - 午後：専門の内容のプレゼンの相互評価（グループワーク）

水曜 - 午前：1分スピーチ

火曜 - 午後：パワポプレゼンの相互評価（本番）

火曜 - 午後：パワポプレゼンの相互評価（グループワーク）

閲覧画面（個人ごと閲覧）

2022-09-09 11:2

(2022ZZ0101)

詳細表示

#	観点	3	2	1	
1	時間配分はよかったですか	時間内に話し終わっていた／時間を余らせることなく終わっていた	大幅というほどでないが、時間を超過していた／時間を残していた	時間を大幅に超過していた（話し終わらなかった）／時間を大幅に残していた	
2	メモをあまり見ずに話せていましたか／アイコンタクトができていましたか	ほぼメモを見ずに話せていた	聴衆の方をあまり見られていなかった	終始メモを見て、聴衆の方をほとんどみられていなかった	
3	情熱的/エネルギッシュな発表でしたか	情熱あふれる発表だった	普通	淡々とした発表だった	
4	面白い発表でしたか／ためになる発表でしたか	面白い／ためになる発表だった	普通	つまらない発表だった	
5	質疑1：内容	うまく対応できていた	ところどころ詰まっていたが、おおむねうまくこなせていた	きちんとした応答ができていなかった	

をクリックすると
コメントも閲覧可能

3	
1	(2022ZZ0104) 動画と喋りの切り替えが大変そうだった。

2	
1	(2022ZZ0103) 動画がたくさんあってわかりやすかった。今日のシステムでは動画があるたびに音声の切り替えが必要だったのでそのぶん伸びてしまったような気がします。

1日の授業の流れ



相互評価用の
アプリを開発

	活動	内容	備考	アプリの利用
午前	目標の共有	目標の共有	紙に記入	○：参照のみ
	Warmup活動	TED視聴、即答練習 ディスカッション		×
		Spontaneous speech	即興で話す練習	◎：記入・参照
午後	グループ練習 (2,3回繰り返す)	日替り (下段参照)	少人数・ピアでの練習	◎：記入・参照
	オンライン プレゼン (本番)	オンラインプレゼン時に遠隔地の英語話者も参加	全員の前で発表	◎：記入・参照
	リフレクション	達成度、自己・相互評価の共有	紙に記入	○：参照のみ

メインの活動

月：自己紹介 火：スライドプレゼン (理系トピック)
水：ポスタープレゼン (研究紹介) 木：本の推薦 金：スピーチ

ループリックの設定基準

- 単純な設定（4項目、3段階）から段階的に詳細化・適応化
項目：理解できたか、アピーリングか、時間配分、アイコンタクト
- 段階的に詳細化・学生に合わせて随時変更
 - 前日までのリフレクションや課題内容に応じて変更
 - 課題の前にループリックの説明をし、学生から意見があれば適宜変更

詳細化・適応化の例

資料使用時：ポインティングができていたか

専門の発表：専門用語の言い換えができていたか

複数の観点の説明がある時：ソースを引用できていたか

パターンプラクティス（1日の始め）

学生が表現と例文を作成、音読→他の学生が繰り返す

教員は適宜、文の誤りの訂正や、補足説明

学生たちが抱えている課題に沿った内容になっているため、即効性が高いものに

学習者Aの場合			学習者Bの場合		
	目標	使いたい表現		目標	使いたい表現
月	英語で話すことに慣れる／質問に慣れる		月	簡単な英語より分かりやすい英語	Properly
火	おちついて話し切る／他の人の良いところをとりいれる	“Like this”, “do you mean”	火	簡単な英語表現で工夫して喋る	Make sense
水	話すときゆっくり話す。強調する	“Thank you for (your) interesting presentation	水	難しい題材でも自信をもってしゃべる	And now, do you mean
木	相手の言われたことについてかみくだいてききなおす	Let me see if I understand correctly	木	前をむいてしゃべる	Please give me a moment
金	ゆっくり話して魅力を伝える	In conclusion, …	金	情報の取捨選択、今から話すことの先出しと結論	In brief, …

- ・その時々自分自身の課題に応じた目標設定になっている
- ・日を追うにつれ、目標が具体的になっていることがみてとれる。

学習者Aは自分自身のことから徐々に相手に応じた話し方に焦点をあてるようになってきている。「使いたい表現」で記載された内容も新出の専門用語というよりも、スピーチの構造に関わるディスコースマーカ―やインタラクションに関するものが多かった。→聞き手を想定した（配慮した）練習にシフト

おわりに (1)

国立大学Aのプレゼンテーションの授業

プレゼン時の相互評価活動をオンラインで実施

○学生自身が学習過程を参照することが容易になった他、教員や他の学生との情報共有も容易に

○授業後の目標設定やリフレクション、使いたい表現のリフレクション時にも活用がしやすくなった

○個々人の学習や経験が授業全体へとうまくフィードバックされ、学習環境がよくなった

○スピーキング活動では外国語不安がスピーキング能力の伸びを阻害するということが言われており、授業環境デザインの意味でもよい効果

おわりに (2)

「オンラインフォームを活用して、個々の学生の状況を把握し、一斉指導に活かす」については、さまざまな課題が残った

- ・紙を使った管理のオンライン化
- ・集計作業や統計処理の自動化など

そのような処理ができたとしても、学生に寄り添った指導という意味は、個別のプロセスを十分に吟味することでよりよい指導につなげることは、地道ではあるが大切なプロセスであると考えている。

今後も個別のプロセスを吟味しながら改善の道を探っていきたい。